

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

解析力学B

第09回: ハミルトン形式

神戸大: 陰山 聡

今日の講義ノート: URL:

2010.12.16

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

1 次回 1月13日 休講

2 レポート回収

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジア
ンと保存則

ラグランジュ
形式からハミ
ルトン形式へ

ハミルトン形
式

§ 数学的準備(簡単な復習)

変数変換(まずは簡単な例)

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

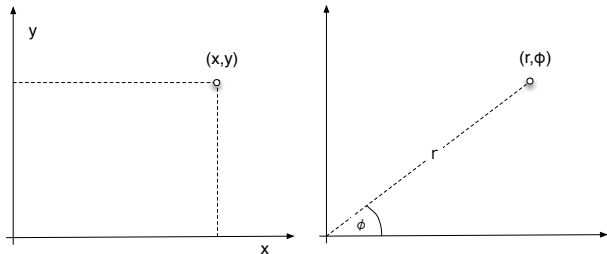
ラグランジア
ンと保存則

ラグランジュ
形式からハミ
ルトン形式へ

ハミルトン形
式

$$\begin{cases} x = x(r, \phi) = r \cos \phi \\ y = y(r, \phi) = r \sin \phi \end{cases}$$

$$\begin{cases} r = r(x, y) = \sqrt{x^2 + y^2} \\ \phi = \phi(x, y) = \arctan\left(\frac{y}{x}\right) \end{cases}$$



一般的な変数変換

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジア
ンと保存則

ラグランジュ
形式からハミ
ルトン形式へ

ハミルトン形
式

独立変数 $q = (q_1, q_2, \dots, q_N)$

従属変数 $Q = (Q_1, Q_2, \dots, Q_N)$

$$\begin{cases} Q_1 & = & Q_1(q_1, \dots, q_N) \\ Q_2 & = & Q_2(q_1, \dots, q_N) \\ & \vdots & \\ Q_N & = & Q_N(q_1, \dots, q_N) \end{cases}$$

変数変換 $q \rightarrow Q$

$$\begin{cases} q_1 & = & q_1(Q_1, \dots, Q_N) \\ q_2 & = & q_2(Q_1, \dots, Q_N) \\ & \vdots & \\ q_N & = & q_N(Q_1, \dots, Q_N) \end{cases}$$

アインシュタインの規約

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

$$a_1 x_1 + a_2 x_2 + \cdots + a_N x_N = \sum_{j=1}^N a_j x_j = a_j x_j$$

アインシュタインの規約

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

変数 x_1, x_2, \dots, x_N

定数 a_1, a_2, \dots, a_N

$$\Phi = \sum_{j=1}^N a_j x_j = a_j x_j$$

$$\begin{aligned} \frac{\partial \Phi}{\partial x_1} &= \frac{\partial}{\partial x_1} (a_j x_j) \\ &= \frac{\partial}{\partial x_1} (a_1 x_1 + a_2 x_2 + \dots + a_N x_N) \\ &= a_1 \end{aligned}$$

一般に:

$$\frac{\partial}{\partial x_k} (a_j x_j) = a_k$$

微分

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

変数 $x = (x_1, x_2, \dots, x_N)$
関数 $f_1(x), f_2(x), \dots, f_N(x)$

$$\Psi = f_1(x) x_1 + f_2(x) x_2 + \dots + f_N(x) x_N$$

$$\begin{aligned} \frac{\partial \Psi}{\partial x_1} &= \frac{\partial}{\partial x_1} (f_j(x) x_j) \\ &= \frac{\partial}{\partial x_1} (f_1(x) x_1 + f_2(x) x_2 + \dots + f_N(x) x_N) \\ &= f_1(x) + \frac{\partial f_1}{\partial x_1} x_1 + \frac{\partial f_2}{\partial x_1} x_2 + \dots + \frac{\partial f_N}{\partial x_1} x_N \\ &= f_1(x) + \frac{\partial f_j(x)}{x_1} x_j \end{aligned}$$

一般に:

$$\frac{\partial}{\partial x_i} (f_j(x) x_k) = f_k + \frac{\partial f_j}{\partial x_i} x_j$$

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

§ ラグランジアンと保存量

ポテンシャル中の質点の運動

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジア
ンと保存則

ラグランジュ
形式からハミ
ルトン形式へ

ハミルトン形
式

ポテンシャル U が $z = x_3$ だけの関数 $U = U(x_3)$ の場合を考える。

例: 重力ポテンシャル $U = mgx_3$

ラグランジアン

$$L = \frac{m}{2} \dot{x}_j \dot{x}_j - U(x_3)$$

ラグランジュの運動方程式

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{x}_i} \right) - \frac{\partial L}{\partial x_i} = 0 \quad (i = 1, 2, 3)$$

ポテンシャル中の質点の運動

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

$$i = 1$$

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{x}_1} \right) - \frac{\partial L}{\partial x_1} = \frac{d}{dt} (m\dot{x}_1) = 0$$

$$i = 2$$

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{x}_2} \right) - \frac{\partial L}{\partial x_2} = \frac{d}{dt} (m\dot{x}_2) = 0$$

$$i = 3$$

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{x}_3} \right) - \frac{\partial L}{\partial x_3} = \frac{d}{dt} (m\dot{x}_3) - \frac{dU}{dx_3} = 0$$

$m\dot{x}_1$ と $m\dot{x}_2$ は保存量。(運動量の x, y 成分。)

ポテンシャル中の質点の運動

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

\dot{x}_1 と \dot{x}_2 が保存する理由:

ラグランジアン

$$L = \frac{m}{2} \dot{x}_j \dot{x}_j - U(x_3)$$

に x_1 と x_2 が入っていなかったから。

循環座標

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

ラグランジアン

$$L(q_1, q_2, \dots, q_N, \dot{q}_1, \dot{q}_2, \dots, \dot{q}_N)$$

が q_k を含んでいない

$$L(q_1, \dots, q_{k-1}, q_{k+1}, \dots, q_N, \dot{q}_1, \dots, \dot{q}_N)$$

とき、 q_k を循環座標という。このとき、

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{q}_k} \right) - \frac{\partial L}{\partial q_k} = \frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{q}_k} \right) = 0$$

つまり $\frac{\partial L}{\partial \dot{q}_k}$ は保存量となる。

もう一つの保存量

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

ポテンシャル $U(x_3)$ 中の運動にはもう一つ保存量がある。座標変換すれば一目瞭然となる。円筒座標 (r, ϕ, z) を使う。

$$x_1 = r \cos \phi$$

$$x_2 = r \sin \phi$$

$$x_3 = z$$

もう一つの保存量

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

$$\dot{x}_1 = \dot{r} \cos \phi - r \sin \phi \dot{\phi}$$

$$\dot{x}_2 = \dot{r} \sin \phi + r \cos \phi \dot{\phi}$$

$$\dot{x}_3 = \dot{z}$$

$$\begin{aligned} L &= \frac{m}{2} \dot{x}_j \dot{x}_j - U(x_3) \\ &= \frac{m}{2} \left\{ \left(\dot{r} \cos \phi - r \sin \phi \dot{\phi} \right)^2 + \left(\dot{r} \sin \phi + r \cos \phi \dot{\phi} \right)^2 + \dot{z}^2 \right\} - U(z) \\ &= \frac{m}{2} \left(\dot{r}^2 + r^2 \dot{\phi}^2 + \dot{z}^2 \right) - U(z) \end{aligned}$$

ϕ は循環座標。従って、

$$\frac{\partial L}{\partial \dot{\phi}} = mr^2 \dot{\phi}$$

は保存量

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

§ ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ラグランジュ力学の復習

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

ラグランジアン

$$L(x, \dot{x}) = (\text{運動エネルギー}) - (\text{ポテンシャルエネルギー})$$

ラグランジュの運動方程式

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{x}} \right) - \frac{\partial L}{\partial x} = 0$$

時間に関する2階の微分方程式系

運動方程式の数値積分

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

時間に関する2階の微分方程式系

$$\ddot{x} = \phi(x, \dot{x})$$

このままでは数値積分で使いにくいので、時間に関する1階の微分方程式系に変えた。(式の数 は 2倍。)

$$\dot{x} = v$$

$$\dot{v} = \phi(x, v)$$

プログラム例(再掲):

spring_swing_particle.cpp

```
double s, common_factor;
```

```
s = sqrt( (x1-x0)*(x1-x0) + (y1-y0)*(y1-y0) + (z1-z0)*(z1-z0) );
```

```
common_factor = (K/M) * (s-L0) / L0;
```

```
dpos[0] = ( u1 ) * dt;
```

```
dpos[1] = ( v1 ) * dt;
```

```
dpos[2] = ( w1 ) * dt;
```

```
dpos[3] = ( -common_factor*(x1-x0) ) * dt;
```

```
dpos[4] = ( -common_factor*(y1-y0) ) * dt;
```

```
dpos[5] = ( -common_factor*(z1-z0) - GRAVITY_CONST ) * dt;
```

運動方程式の数値積分

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジア
ンと保存則

ラグランジュ
形式からハミ
ルトン形式へ

ハミルトン形
式

変数(式)を2倍増やして時間に関する1階の微分方程式系にした。

$$\dot{x} = v$$

$$\dot{v} = \phi(x, v)$$

・・・なんとも不自然。はじめから1階の微分方程式系を導く力学理論はできないか？ ⇒ ハミルトン(Hamilton)形式

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

§ ハミルトン形式

ラグランジュの運動方程式の「一階微分化」

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{x}} \right) - \frac{\partial L}{\partial x} = 0$$

新しい変数 $p = \frac{\partial L}{\partial \dot{x}}$ とおけば

$$\begin{cases} \dot{p} = \frac{\partial L}{\partial x} \\ p = \frac{\partial L}{\partial \dot{x}} \end{cases}$$

という二つの式になるが、下の式は数値計算ではそのまま使えない。左辺が時間微分でないから。上の式はいい。

$$\dot{x} = ???$$

という形が自然に出てくる力学理論はないか？

ラグランジュの運動方程式の「一階微分化」

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

$$p = \frac{\partial L}{\partial \dot{x}}$$

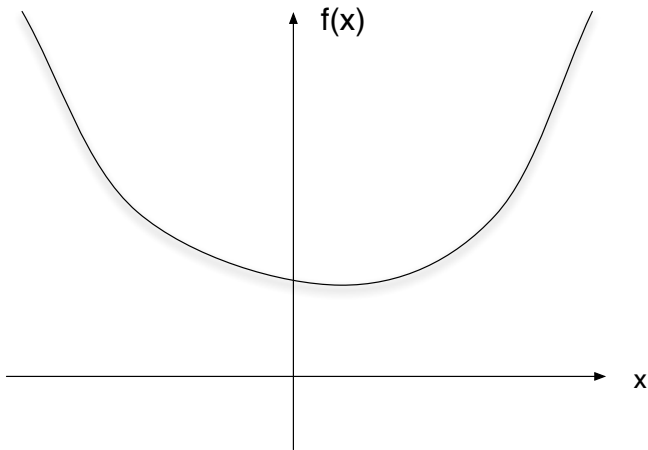
ではなく

$$\dot{x} = \frac{\partial(?)}{\partial p}$$

という形が欲しい。

ルジャンドル変換

x の凸関数 $f(x)$



解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

ルジャンドル変換

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

変数 x の関数 $f(x)$

接線の傾き β を決めれば、 x は一意に決まる:

$$\beta = \frac{df}{dx}(x)$$

を解けばよい。

変数変換 $x \rightarrow \beta$

ルジャンドル変換

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

逆に

$$x = \frac{dg}{d\beta}(\beta)$$

となるような変数 β の関数 $g(\beta)$ は何か？

答え:

$$x\beta = f + g$$

あるいは

$$g = x\beta - f$$

これを $f \rightarrow g$ のルジャンドル(Legendre)変換という。 g も凸関数。

ルジャンドル変換

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジア
ンと保存則

ラグランジュ
形式からハミ
ルトン形式へ

ハミルトン形
式

確認:

$$g(\beta) = x(\beta) \beta - f(x(\beta))$$

$$\frac{dg}{d\beta} = x(\beta) + \beta \frac{dx(\beta)}{dx} - \frac{df}{dx} \frac{dx}{d\beta} = x$$

ここで $\frac{df}{dx} = \beta$ を使った。

ルジャンドル変換の例

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジア
ンと保存則

ラグランジュ
形式からハミ
ルトン形式へ

ハミルトン形
式

$$f(x) = x^2 \longleftrightarrow g(\beta) = \frac{\beta^2}{4}$$

$$f(x) = \frac{mx^2}{2} \longleftrightarrow g(\beta) = \frac{\beta^2}{2m}$$

逆変換すると元に戻る。

ラグランジュの運動方程式に戻る

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{x}} \right) - \frac{\partial L}{\partial x} = 0$$

$$p = \frac{\partial L}{\partial \dot{x}} \rightarrow \dot{x} = \frac{\partial(?) }{\partial p}$$

としたい。

$\dot{x} \rightarrow p$ に変数変換し、 L をルジャンドル変換する。

$$H = p\dot{x} - L$$

すると

$$\dot{x} = \frac{\partial H}{\partial p} \quad (\text{望みどおりの形})$$

になる。

ハミルトニアン

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

ラグランジアン L をルジャンドル変換した

$$H = p \dot{x} - L$$

をハミルトニアン (Hamiltonian) という。

ハミルトニアンでは x と p が独立変数である。

p を x に共役な運動量、あるいは正準運動量という。

$$\dot{x} = \frac{\partial H}{\partial p}$$

ハミルトニアン

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

$\frac{\partial H}{\partial x}$ はどうなる？

$$\begin{aligned}\frac{\partial H}{\partial x} &= \frac{\partial}{\partial x} (p\dot{x} - L(x, \dot{x}(x, p))) \\ &= p \frac{\partial \dot{x}(x, p)}{\partial x} - \frac{\partial L}{\partial x} - \frac{\partial L}{\partial \dot{x}} \frac{\partial \dot{x}}{\partial x} \\ &\quad \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{x}} = p \text{ より} \right) \\ &= -\frac{\partial L}{\partial x} \\ &= -\dot{p}\end{aligned}$$

最後の式は、ラグランジュの運動方程式

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{x}} \right) = \frac{dp}{dt} = \frac{\partial L}{\partial x}$$

による。

ハミルトン形式の力学

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

まとめると、ラグランジアン $L(q, \dot{q})$ が与えられているとき、 q と正準運動量 p

$$p = \frac{\partial L}{\partial \dot{q}}$$

を独立変数としたハミルトニアン $H(q, p)$ を

$$H(q, p) = p\dot{q} - L$$

として定義すると、運動方程式は下の形になる。

$$\begin{cases} \dot{q} = \frac{\partial H}{\partial p} \\ \dot{p} = -\frac{\partial H}{\partial q} \end{cases}$$

これをハミルトン形式の運動方程式(あるいは正準運動方程式)という。

ハミルトン形式の力学

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

注意:ハミルトニアン $H = p\dot{q} - L$ の右辺にある \dot{x} は x, p の従属変数である。

つまり:

$$H(x, p) = p \dot{x}(x, p) - L(x, \dot{x}(x, p))$$

多自由度系の場合

これまでは1次元自由度のみ考えていた。多自由度系の場合も同じ。

ある力学系がN個の変数 $q = (q_1, q_2, \dots, q_N)$ のラグランジアン

$$L = L(q, \dot{q})$$

で記述されているとする。

q_i に共役な運動量(一般化運動量) p_i

$$p_i = \frac{\partial L}{\partial \dot{q}_i}$$

とハミルトニアン H を

$$H(p, q) = p_j \dot{q}_j - L$$

と定義する。(多次元関数のルジャンドル変換。)

多自由度系の場合

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

連立方程式

$$p_i = \frac{\partial L}{\partial \dot{q}_i}(q_1, q_2, \dots, q_N, \dot{q}_1, \dot{q}_2, \dots, \dot{q}_N)$$

を解いて、

$$\dot{q}_i = \dot{q}_i(q_1, q_2, \dots, q_N, p_1, p_2, \dots, p_N)$$

とする。

ハミルトニアンを

$$H(q, p) = p_j \dot{q}_j - L$$

と定義する。

ここで右辺は \dot{q} とラグランジアン

$$L = L(q_1, q_2, \dots, q_N, \dot{q}_1, \dot{q}_2, \dots, \dot{q}_N)$$

は、 $\dot{q}_i(q, p)$ を通じた合成関数である。

多自由度系の場合

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

$$\begin{aligned}\frac{\partial H}{\partial p_k} &= \frac{\partial}{\partial p_k} (p_j \dot{q}_j) - \frac{\partial}{\partial p_k} L(q, p) \\ &= \dot{q}_k + p_j \frac{\partial \dot{q}_j}{\partial p_k} - \frac{\partial L}{\partial \dot{q}_\ell} \frac{\partial \dot{q}_\ell}{\partial p_k} \\ &\quad \left(p_\ell \text{ の定義 } \frac{\partial L}{\partial \dot{q}_\ell} = p_\ell \right) \text{ より} \\ &= \dot{q}_k + p_j \frac{\partial \dot{q}_j}{\partial p_k} - p_\ell \frac{\partial \dot{q}_\ell}{\partial p_k} \\ &= \dot{q}_k\end{aligned}$$

多自由度系の場合

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

$$\begin{aligned}\frac{\partial H}{\partial q_k} &= \frac{\partial}{\partial q_k} (p_j \dot{q}_j) - \frac{\partial}{\partial q_k} L(q, \dot{q}) \\ &= p_j \frac{\partial \dot{q}_j}{\partial q_k} - \left(\frac{\partial L}{\partial q_k} + \frac{\partial L}{\partial \dot{q}_j} \frac{\partial \dot{q}_j}{\partial q_k} \right) \\ &= p_j \frac{\partial \dot{q}_j}{\partial q_k} - \frac{\partial L}{\partial q_k} - p_j \frac{\partial \dot{q}_j}{\partial q_k} \\ &= -\frac{\partial L}{\partial q_k} \\ &= -\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{q}_k} \right) \quad (\text{ラグランジュの運動方程式より}) \\ &= -\frac{d}{dt} p_k \\ &= -\dot{p}_k\end{aligned}$$

多自由度系の正準運動方程式

まとめ:

$q = (q_1, q_2, \dots, q_N)$ と $\dot{q} = (\dot{q}_1, \dot{q}_2, \dots, \dot{q}_N)$ のラグランジアン $L(q, \dot{q})$ から、正準運動量

$$p_i = \frac{\partial L}{\partial \dot{q}_i} \quad (i = 1, 2, \dots, N)$$

及び、 q_i と p_i を独立変数としたハミルトニアン

$$H(q, p) = p_j \dot{q}_j - L(q, \dot{q})$$

を作る。すると正準運動方程式は:

$$\begin{cases} \dot{q}_k &= \frac{\partial H}{\partial p_k} \\ \dot{p}_k &= -\frac{\partial H}{\partial q_k} \end{cases}$$

正準運動方程式の例: バネ

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式



$$L = \frac{m}{2}\dot{q}^2 - \frac{k}{2}(q - \ell_0)^2$$

$$p = \frac{\partial L}{\partial \dot{q}} = m\dot{q} \quad \left(\dot{q} = \frac{p}{m}\right)$$

$$\begin{aligned} H &= p\dot{q} - L = p \frac{p}{m} - \left\{ \frac{m}{2} \left(\frac{p}{m} \right)^2 \right\} + \frac{k}{2}(q - \ell_0)^2 \\ &= \frac{p^2}{m} - \frac{p^2}{2m} + \frac{k}{2}(q - \ell_0)^2 \\ &= \frac{p^2}{2m} + \frac{k}{2}(q - \ell_0)^2 \end{aligned}$$

正準運動方程式の例: バネ

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

$$H(q, p) = \frac{p^2}{2m} + \frac{k}{2}(q - \ell_0)^2$$

正準運動方程式

$$\begin{cases} \dot{q} &= \frac{\partial H}{\partial p} &= \frac{p}{m} \\ \dot{p} &= -\frac{\partial H}{\partial q} &= -k(q - \ell_0) \end{cases}$$

正準運動方程式の例: もう少し面白い例

解析力学B

C3-302

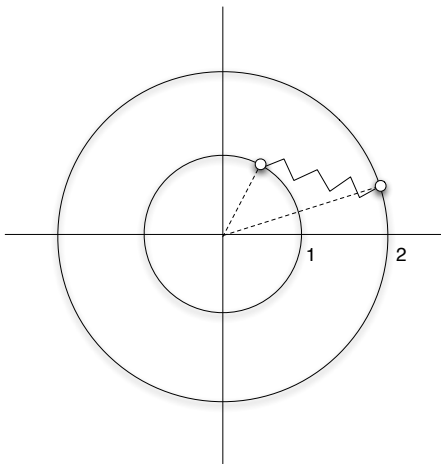
連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式



正準運動方程式の例: もう少し面白い例

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

原点を中心とした $x - y$ 平面上の二つの円(半径1と2)の上を動く二つの質点を考える。二つの質点はバネ(定数 k 、自然長 l_0)で結ばれている。

二つの質点間の距離 l は

$$l = \sqrt{5 - 4 \cos(\phi_1 - \phi_2)}$$

である。

ラグランジアンは

$$L = \frac{m}{2} (\dot{\phi}_1^2 + 4\dot{\phi}_2^2) - \frac{k}{2} \left(\sqrt{5 - 4 \cos(\phi_1 - \phi_2)} - l_0 \right)^2$$

正準運動方程式の例: もう少し面白い例

正準運動量

$$p_1 = \frac{\partial L}{\partial \dot{\phi}_1} = m\dot{\phi}_1 \quad (\dot{\phi}_1 = p_1/m)$$

$$p_2 = \frac{\partial L}{\partial \dot{\phi}_2} = 4m\dot{\phi}_2 \quad (\dot{\phi}_2 = p_2/4m)$$

ハミルトニアン

$$\begin{aligned} H &= p_1\dot{\phi}_1 + p_2\dot{\phi}_2 - L \\ &= p_1 \cdot \frac{p_1}{m} + p_2 \cdot \frac{p_2}{4m} - \frac{m}{2} \left(\frac{p_1^2}{m^2} + 4 \cdot \frac{p_2^2}{16m^2} \right) \\ &\quad - \frac{k}{2} \left(\sqrt{5 - 4 \cos(\phi_1 - \phi_2)} - \ell_0 \right)^2 \\ &= \frac{p_1^2}{2m} + \frac{p_2^2}{8m} + \frac{k}{2} \left(\sqrt{5 - 4 \cos(\phi_1 - \phi_2)} - \ell_0 \right)^2 \end{aligned}$$

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

正準運動方程式の例: もう少し面白い例

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

正準運動方程式

$$\dot{\phi}_1 = \frac{\partial H}{\partial p_1} = \frac{p_1}{m}$$

$$\dot{\phi}_2 = \frac{\partial H}{\partial p_2} = \frac{p_1}{4m}$$

$$\dot{p}_1 = -\frac{\partial H}{\partial \phi_1} = 2k\Lambda \sin(\phi_1 - \phi_2)$$

$$\dot{p}_2 = -\frac{\partial H}{\partial \phi_2} = -2k\Lambda \sin(\phi_1 - \phi_2)$$

ここで $\Lambda = 1 - \frac{\ell_0}{\sqrt{5-4 \cos(\phi_1 - \phi_2)}}$ あとはこの微分方程式系を数値的に積分すれば良い。

まとめ

解析力学B

C3-302

連絡事項

数学的準備
(簡単な復習)

ラグランジアンと保存則

ラグランジュ形式からハミルトン形式へ

ハミルトン形式

- ハミルトンの運動方程式(正準運動方程式)
- q と p の関数
- ハミルトニアン H がわかれば運動がわかる

次回(1/13)休講。
定期試験は2/10。